

2020年度 事業報告書

2020年4月1日から2021年3月31日まで

特定非営利活動法人フリースクール札幌自由が丘学園

1 事業の成果

2020年度は、社会全体が新型コロナウイルスの世界的大流行というかつてない苦境に見舞われる中、児童生徒たちの健康と精神的安らぎが保障された学びの場を維持するため、会員一同が奮闘努力した。法人設立時に掲げた以下の目的が、これまで以上に重い実感を伴って我々に課せられた一年だったと感じる。

＜不登校の児童生徒たちに安心できる居場所と学びの場を提供し、これを通して児童生徒が学校復帰、及び高校その他の学校への進学など、自立に向かって自らを成長させることができるよう援助し、子どもたちの健全育成、生涯学習などの公益の増進に寄与することを目的とする。＞（定款より）

2020年度は4月の時点で13名が在籍していたが、年度開始と同時に学校の全国一斉休校に合わせて臨時休校を実施し、4月・5月は生徒の登校がない状態が続いた。この間は授業料等も徴収していない。6月から午前のみの時短登校を再開し、6月後半からは午後も活動できる日を週2回設け、7月からは毎日午後も活動できることとした。しかし、11月にまた感染者が急増したことを受け、再び臨時休校を実施した。

このように、2020年度の活動は常に流動的で、日ごとの感染者数の推移をにらみながらその都度対応を再考せざるを得ない状況が続いた。特別活動についても中止・延期が相次いだ。そうした先行き不透明な状況が、生徒たちにどれだけ強い心理的負担を与えたかは想像に難くない。

11月の臨時休校を機に、ウェブ会議ツール Zoom を用いてオンラインでの授業中継を始めた。札幌市のさぼーとほっと基金およびコロナ対策臨時事業費補助金によって機材を揃え、臨時休校期間の終了後も対面授業と並行してオンラインでの対応を続けた。また、12月の三者面談もオンラインで実施した。この取り組みによって、休校期間のみならず登校再開後も交通機関の利用などに不安がある生徒に対応することができた。単に休校・欠席とするよりも生徒にとって益は多かったと考えるが、一方でオンラインでの授業参加には抵抗を感じるという生徒も数名おり、こうした状況下での一斉対応の難しさを改めて感じた。

また、上記のさぼーとほっと基金およびコロナ対策臨時事業費補助金のほか、国の持続化給付金、道の休業協力支援金および経営持続化臨時特別支援金も申請し、学園の運営維持に努めた。例年申請している札幌市のF S等民間施設事業費補助金とも合わせるとその申請及び報告業務に割く労力はかなりのものとなったが、これらによって法人の減益を免れることができた。

このほか、困難な状況下ではあるが、相談会や学園開放デーをなるべく毎月実施するなど、学園を利用するしないに関わらず心を和らげてもらえるような機会を設け、上記の定款に掲げた目的をより多く子ども・保護者に対して達成することができた。相談会などの際、保護者からは「4～5月の休校期間がきっかけとなり、休校期間が明けても学校に行けずにいる」という相談が複数あったことを考えると、これまでとはまた違った学園の存在意義が生まれた年度だったとも言える。

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

定款の事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従業者数	対象者数
① 不登校児童生徒の学習に関する支援の事業	1 毎日の学習（対面およびオンラインでの授業、個別学習の指導・援助）	通年	学園	2名 (ほか、ボランティアスタッフとして適宜1~2名が参加)	15~25名
	2 夏期・冬期休業期間中の特別講習	7~8月 1月	学園		
	3 体育活動の実施と指導、運動会の実施	7~2月	札幌市中央体育館・札幌市美香保体育館・サッポロテイネスキー場 ほか		
	4 野外活動・宿泊活動・文化芸術活動など、各種の特別活動の実施と指導	6~3月	野外活動:豊平川河川敷(ウォーキング)など 宿泊活動:登別市・白老町(宿泊学習) 文化芸術活動:北海道立近代美術館(芸術鑑賞)		
② 学校復帰と自立を求める若者への相談の事業	1 高校進学に関する指導(特別授業として)	7月	学園	2名	15~25名
	2 同上(日常的な関わりとして)	随時			
	3 個別相談	随時			
	4 三者面談(オンラインでの実施を含む)	7月・12月			
	5 学園開放デー	通年	学園	2名	15~25名
③ 前各号に関する児童生徒若者の父母及び医療・カウンセリング専門家との各種の連携の事業	1 保護者懇談会	10月	学園	2名	5~10名
	2 不登校相談会	通年	学園	2名	20名
	3 収入に応じた授業料減額制度実施	通年	学園	3名	若干名
④ 小学校、中学校、高等学校その他教育機関との連携の事業	1 関係各中学校との定期的な交流(出席や成績などのデータ報告)	通年	学園	2名	
	2 北星学園大学実習生の受け入れ(文学部)	1-2月	学園	2名	6名
※定款事業に付随する事業	学園だより「希望の樹」の作成および配布	5・8・10・12月		2名	200名
法人の広報に関する事業(事業の普及および賛助会員の募集)	HPの更新 SNSアカウントの運用	随時		2名	

(2) その他の事業：実施事業なし